



町村総会

人口が四〇〇人ほどの高知県大川村。愛媛県と高知県の境、標高千メートルの山間部に点在する集落で構成されるこの村は、議会議員のなり手が少ないので、村議会を廃し、自治法に定める町村総会（ちようそんそうかい）の設立の検討を始めたという。

ある新聞社の調査によると、議員定数が一〇人未満の全国一五四町村の議会のうち、四割以上が議事を廃して、有権者が直接予算案や条例案を審議する「町村総会」に移行することを「将来検討する可能性がある」と考えているらしい。

町村総会とは、地方自治法（昭和二年法律第六十七号）第九四条および第九五条に定められた直接民主制の制度です。代議制である議会に代わり直接有権者である住民全員が、自治体の重要施策を決定する仕組みです。過去実施された例は、実質的には一例のみとされます。

▲議会形骸化の上を行く

町村総会が検討される背景は、人口減で議会を構成する議員の

町の生き残りを願うなら

跳ね上がれ、怒れるヤング！

確保が困難、あるいは合併等による弱小自治体の統合が出来なかった、などですが、この大川村は、一九七八年（昭和五三）、四国の水ガメと呼ばれる早明浦（さめうら）ダム建設に伴い、中心部の集落が水没しました。以来三十九年、現在では離島を除き日本一の人口の少ない自治体です。

都市部の水不足を補うため河川上流にダムがつくられ、ではダムが完成してもその恩恵をうけることなく犠牲になる。弱小末端自治体の、いわば一家離散のカタチとも言える姿です。

大川村は早明浦ダム建設には最後まで反対し続けました。遂には水没予定地に新しい役場庁舎を建設、村民の憤怒の証とした自治体としても知られます。

▲法の裏付けのあるなし

話しをもう少しします。

人口が少なくないなら、議会はなくとも、有権者の総意で物事を決めればいいではないかと思うのは、人情かもしれません。が、そう簡単にはいきません。

議会から町村総会に代わった、具体的にどう運営すればいい

のか。少ない過去事例からは参考になる資料も少ないといいますが、単純に考えても難しいだろうとは予想できます。

つまりこうです。自治法にある町村総会とは、議会に代わるものとして設置してもよいという規定なので、議会の代わり、つまり運営手続きについては議会同様が想定されているらしいからです。（参考：自治法第九十五条、前条の規定による町村総会に關しては、町村の議会に關する規定を準用する）

そうであるなら、むしろ運営が難しくなる。例えば大川村のように、いまだ八名の議員で自治体の意志決定をしていたのが、仮に議決権がある者を人口の半分だとしても総会では二〇〇名の議員が居るのと同じことになるからです。船頭多ければ船山に登る・・・

運営が難しく思うと思える理由にはほかに考えられますが、話が複雑になるのでここでは割愛します。

▲法の恣意的解釈は許されない

自治法には、そもそもこの特例についての細かい規定がありません。この点について言えばザルです。しかも法治国家の泣き所は、良くも悪くも憲法（法を守る）とせねばならないこととです。

昨今の国政の場における政權党の脱憲法行為が、そのまますされるのならば、そもそも末端自治体でこのような悩みに苦しまなくてもいいはずなんです。

翻って、法を守らぬ政權党が、末端自治体の苦しみをすくい上げる立法を、あるいは法改正を、すばやく閣議決定や強行採決するなどとは思えません。よって大川村はこれからも、国策の犠牲者でありつつ、またもや先駆

きどぐち ハニ

青木喜代子

やる気の起きない雨の午後、夫に「夕食、リクエストありますか？」と聞いた。手の込んだものだったらどうしよう・・・と、心の中で小さなガッツポーズ。野菜と肉と焼きタレをかけるだけ。汁とサラダをサッピスしても超簡単。

肉を買いに行き支度をしていて、夫が「うーん・・・」「どうした？」「焼き肉もいいねえー。（うっそー）」「外でしまいか？」（雨ですが？）」「ブルーシートを張って出来ん事はない。」「どっちにするか決めてください。準備しますから。」

ギアチェンジした夫は、雨の中を倉庫から炭や道具を裏庭へ運び込む。さすがに私も「お手伝いしましょうか？」「いえ、楽しんでやってますから大丈夫！」と。投光器でのライトアップも出来、炭もいこった。パラパラとシートをたたき雨の音の中、ふたりの焼き肉パーティ



小さい庭での二人の夕餉

しあわせです

いつの間にか雨も止んでいた。「いつでも出来ますよ。また気がむいたらやりましょう。」と。私はお皿を洗うだけの後片づけ。そう言う意味でも幸せな夕餉でした。

数日後知り合いの山から腰掛けとテーブルに頃合いの大きな切り株をもらってきた。裏庭にドーンとある。先日はコーヒを飲んだ。美味です。

ティ開始。自分の肉だけ好きに焼いて、好きなだけ食べようと決めて。

上等なお肉400グラムは、もちろん、いつもは残る野菜もペロリ。熱い若布スリブをふきふき「美味しかったですわねえ」「幸せですねえ」「まるでキヤンプに行つたみたい！」と、時間を気にせず炭の火を見ながらボーッとしていた。

議員活動録

(49) 上島町議会議員 平山和昭



▲わが町では遊休農地活用として太陽光発電パネルの設置も増加中。町は農業振興策として優良農地を提供し、就農を目的とした移住者呼び込みを計りたいとする。私有地でもある優良農地をどう政策的に確保するかは、施策の成否に直結する。

優良農地をどう生かすか

▼一方で農家の高齢化と後継者難が、遊休農地、耕作放棄地を増加させている。そうした中、管理を他者に委ねても農地を守っている農家もある。



者としての茨の道を、歩まざるを得ないのだからと思います。心傷んで余りあります。

▲変革は弱いところ、小さいところ、遠いところから

決して他人事ではありませんが町の将来を見ても、変革のためには議会の、そして議員の若返りと質の向上は待った無しです。だからこそ次なる改選に向け、町の生き残りをかけ、思慮深い、勇敢な若者が、一人でも多く町政に参画して欲しいと願ってやまないのです。

映画研究会

6月15日(木) 無料 19時から 参加自由
 【007 ユア・アイズ・オンリー】



●過日物故した三代目 007 ジェームス・ボンド、ロジャー・ムーア追悼研究会。彼の最高傑作を研究します。

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会 (参加自由)
(毎月 25 日 13 時～。生名開発センター 2F で開催)
(34)

國太郎が故郷生名島で余り知られてない原因が、國太郎の活躍した当時の村の長老たちに良い印象で受け止められていなかったらしいこともあるのではないかと、先月号で書きました。情報が田舎には届きにくい時代にあつて、船会社相手に船員の待遇改善のため闘ってきた人物が「ただ者ではない」とは認めても、その「ただ者ではない」ことに恐れが入り交じっても不思議ではないからです。

そもそものが船員 (労働者) の権利という概念すら国民一般にはなじみの薄いものでしたでしょう。明治憲法下のお上 (天皇) と下々 (臣民) という仕組みにどっぷり浸かっていた当時の人々が、背に刺青をした海員組合長をどう受け止めていたかは、容易に想像できます。



▲國太郎公園の登り坂に手すりを設置しました。

ところで國太郎のことを書いた本に「刺青を背負った組合長・浜田國太郎と船員労働運動」(井出孝 1997 年海流社 (絶版)) というのがあります。國太郎伝記の主なものはこの本と、現在生名島在住の歴史家、村上貢さんの著した「海父・濱田國太郎 海員組合を創った男」(2009 年海文堂) と言ってもよいでしょう。その井出さんは後書きで「浜田國太郎という人は現在の我々の感覚ではとらえにくい部分が多く、したがって、評価は大きく別れるだろう。それはそれとして、かつてこのような人が船員社会に大きな影響を及ぼしたことは、十分記憶されていていいことだと考えています」と記されています。日本近代化の過程で、海上労働者の地位向上に尽くした國太郎。生まれ故郷の生名島で、改めてその生き方に触れ、激しく流動している今現在の我々の指針とすべき部分の多い人物だと思えてなりません。

顔を合わせて話をすることの重要性

先日、議会主催で行われた「コミュニケーション講座」。基礎編ということだったが、私にとっては、とても勉強になる内容だったと思う。私にとってコミュニケーションは、かなり大事だと思っていることの一つ。特に、顔を合わせて話すこと、同じ時間を共有することが大事だと思っている。今は、メールや LINE なんかのメッセージでなんでもこたが足りるように言われているけれども、文字で表現できることなんてほんの一部で、実際には直接会って話すことに勝ることはない。以前勤めていたコールセンターでは、相手に自分が伝えたいことが伝わる割合は、メールが二割、電話が六割、直接会って話して九割と教わった記憶がある。そのくらい、コミュニケーションというの

は簡単なようで難しいものなのだ。コミュニケーションを意識して大事にするようになったのは、今急に始まったことではない。スタートは、多分中学を卒業して、一人暮らしを始めた高校生の時。あの頃は、なかなか知らない人と話をするのが苦手で、まず話すことに苦労した。(今では誰も信じてくれない話) でも、一六歳の一人暮らしというのは、周りの大人も気にかけてくれて話しかけてくれるので、黙っているわけにはいかなかった。その時に話題を見つけた訓練ができたと思う。次の転機は、社会人になったとき。言葉遣いや標準語というのは、初めての経験だった。その後は、相手に説明がなかなか伝わらないこと、電話の声の感じひとつで話が一八〇度変わってしまうこと、メールで説明することの難しさなど、会って話せば全然違

コミュニケーションは、意思疎通の重要な手段

うのにと経験をもっとたくさんさせてもらった。もちろん、うまくいかないことも多くは、私のコミュニケーション能力の不足から発生したものだと思う。そして、一番コミュニケーションが大切だと思ったのは、離婚してから。特にコミュニケーションが取れなかったから離婚したわけでもないのだが、人生って一回しかなくて、伝えなきゃいけないこと聴かなきゃいけないことはたくさんある。それなのに、その時は一瞬でその一瞬を逃したら、次のチャンスは訪れないことも多いということ。

子育てでも同じで、今忙しいからかと思っている時、その時は一瞬であの時にもっと・・・と思うことは今でも多い。そして、議員という立場でもコミュニケーションは重要な部分を占める。会える人、直接話をする人は限られている。だから、できるだけ会って話をしようと思っている。話をするときには、きちんと向き合おうと心がけている。

「相手の話を聴こう。」

「相手に寄り添うようにしよう。」

「相手を感じるようにしよう。」

「相手の考えを感じよう。」

「わからないことは聞く。」

してしまいますけれども、私の場合、戦争中の思い出が時折思い出されて、先日などもテレビで花火大会の爆発する音でびっくりして目がさめたということがありました。本当にこのまま行くと北朝鮮を中心とする核戦争がおこるかもしれないと毎日が心配でなりません。(川崎市・羽生さん)



SAVE ENERGY

いつも弓削通信をお送り頂き有難うございます。何やらキナ臭いニュースやジャーナリスト達が真剣な顔でテレビ討論を

私たちは、家庭内別居をしている。(世にいうのは違いますが) 寝る部屋は別。仕事も別。食堂とお風呂は共有。今さら夫婦仲を悪くする理由はない。「これは、ここのセリフ。今までは夫は両親の庇護の下にあり、当人は意識してないかもしれないが、その環境に慣れていた。だが婿養子に入っていた義父は、ひそかに息子である私の夫に、将来を見据えて、血洗いの洗濯機の操作を生前仕込んでいた。たいした父親だ。生前、昼食は私が両親の作。晩年は、すべて私の担当で恩返し。の年月だった。

夫の両親とは、同居させてもらっていた。おかげで私は、子育てをしながら音楽の仕事が続けさせてもらえた。三年前にその両親を見送り、義理を立てる生活から夫を立てる、自分を立てる生活に様変わり。そう、だ、堂々と音を出せる。夫は父親が使っていた部屋を自分の部屋とした。「快適」と思ったのはつかの間。階下はなんとレスンス室。うとうと眠りについたかと思うや、ガンガンのピアノの音が家中に鳴り響く。私たちは、家庭内別居をして

「嫁の分際、任期が終了した。同級生は、ほとんど核家族が当たり前。」

